



ウエネウサラ ueneusara

～イランカラプテ ウエネウサラの種～

もくじ

1. 『コールタールの地平の上で』
2. 『北海道ハイテク AC クラブブログ』・『スポーツナビ+』
3. 『Waizu のブログ 最高の飼育法をめざして…』
4. 『ひとり学際日記』
5. 『日本認知神経リハビリテーション学会公式ホームページ』
6. 『フランスの日々 日本とフランスと海外の, 留学, 研究, 技術, 政治, 経済, 外交, 歴史, 文化について考える』・『宋文洲のメルマガの読者広場』・『青木直人 BLOG』
7. 『東北伝説』
8. 『十勝の大地から・・・ K's FARM 十勝帯広 梶農場』
9. 『田中宇の国際ニュース解説：世界はどう動いているか』
10. あとがき

## 1. 『コールタールの地平の上で』

(<http://indo.to/nakajima>)

1975年生まれで新進気鋭という言葉が似合う保守派論客の中島岳志さんのブログ。北海道大学に着任して5年前後でしょうか。その言論活動も地域振興（という言葉が適切かどうか不安をもちますが）へのかかわりも従前の大学研究者の領域を超えているように思うほどエネルギーです。ここに新しい大学人の先触れを感じますので、ご紹介させていただきました。

20代の博士論文で「アジア太平洋研究賞」、翌年の2005年に著書『中村屋のポーズ』で大仏次郎論壇賞……と、華々しい受賞歴からだけではなく、大学の外での生活する地域への入り込み方に“何か”があるように思えます。

小生のかかわっている月刊誌『しゃりばり』（発行：社団法人 北海道総合研究調査会）でも、2度、ご登場（2007年3月号・No. 301+2009年8月号・No. 330）いただきました。

最初のインタビュー時に「外部から見ればコテコテの大阪らしい共同体の空気が濃密なところ」で育ったことが「体の芯にあるかもしれません」と当方の質問に答えています。この共同体の広がり、地域から国レベルまで伸縮自在であることに、中島さんの思考の広がり、柔軟性に魅力を感じます。

『ウィキペディア』にも「小林よしのり」氏との論争が紹介されていますが、波風を立たせるだけの風を【出力】できる若手が地域に、あるいは同時代にいることは、良い事だと思っています。海面と吹く風の摩擦が、波を作ることだとすれば、『ウエネウサラ』の作り出す大波を期待しています。

『しゃりばり』編集長・大沼芳徳（1947年生）

[目次へ戻る](#)

2. 『ハイテクACブログ』 (<http://ameblo.jp/hht-hac/>)

『スポーツナビブログ』 (<http://www.plus-blog.sportsnavi.com/>)

2012年のロンドン五輪に向けて、今注目が集まっている女子短距離界のエース福島千里（北海道ハイテクAC）。昨年12月に行われた広州アジア大会では、女子100、200mで優勝し日本人女子として初の2冠を達成しました。その後、全国のテレビ番組にも多数出演。その名は一気に全国区になりました。そんな彼女も今年2月からブログを開設。今後、どのようにブログを活用していくのかは、私の楽しみの1つになりそうです。

仕事から、スポーツ関連のブログを拝見する機会が多く、基本的にその目的は情報収集。ブログは一般的にアスリート（チーム）が個人的なメッセージを発する場、企業やスポンサー、各競技団体が情報を提供する場として活用されている傾向が強いと思います。そうした中から、今回はスポーツと社会の関わりが直接見えて分かるサイトを2つ紹介しようと思います。

1つ目は、上記で紹介した福島千里が所属する「北海道ハイテクAC」のブログ。福島千里のブログにもリンクでき、専属広報が福島ら所属選手の活動を綴っています。日本女子短距離チームの強化合宿の様子、イベント訪問、さらには企業スポンサーからの支援や日頃の練習風景等々を簡単に知ることができます。一見よくあるブログですが、日常の出来事を細かく掲載しており、その背景にはスポーツが社会のなかでどのように位置づけられ機能しているのかが分かります。例えば、イベント訪問。アジア大会優勝前までは東京で行われるイベントに参加することはほとんどありませんでした。しかし、年明けに東京で行われた大手スポーツメーカーのイベントに参加。その様子から、アジア大会で優勝した福島の「広告としての価値」の上昇がわかります。言い換えれば、「アジア最速女王が使用してるシューズ」という価値を武器に販売の活性化に繋げようという企業側の意図が見られるということです。このように、日頃の活動から福島というアスリートを「媒介」にスポーツと社会における様々な結びつきを考えるきっかけを与えてくれます。

2つめは、情報サイト「スポーツナビ」のブログです。そこではアスリートからスポーツ雑誌編集者、さらには一般の阪神ファンの方などの思いが書かれています。スポーツの最新情報はもちろん、どのような思いを持ってスポーツを見つめているのかが分かります。勝敗に対する観戦者のコメントなどからスポーツをどのように楽しみ、何を期

待しているのかを知ることができたり、様々なルール変更などによる今後の競技への影響がでたりなど、多様な視点からスポーツに対する知識を習得できます。

以上、スポーツと社会の関わりを知る糸口になると思うもの2つ挙げました。昨今、情報化社会の到来に伴いスポーツと情報の在り方もすさまじい変化が起きています。電子メディアの普及により新聞販売数は減少しています。情報提供を主とする一般紙よりも娯楽的要素が強いスポーツ紙は、その存在意義を問われている状況です。人々もネット等で簡単に結果を知ることができる時代の中で、結果の背後にあるアスリートの思いや葛藤などをどのように伝えていくのか。「物語」を知りたいと思う気持ちは、いつの時代も変わらないものだと思います。そうした思いも込めて、皆様の何かのきっかけになれば幸いです。

某スポーツ新聞記者

[目次へ戻る](#)

### 3. 『Waizu のブログ 最高の飼育法をめざして…』

([http://blog.livedoor.jp/waizu\\_project/](http://blog.livedoor.jp/waizu_project/))

男子の心をつかんで離さない「黒いダイヤ」ことオオクワガタに1,000万円の値段が付いたのは、はや15年ほど前である。当時、80mmのオオクワガタを育てることは至難の技。誰もが夢見るけれど手の届かない大きさ、それが80mmであった。野外採集個体の最大体長77ミリを超えること自体がカミの領域に思えた。やはり自然は偉大なのだと感じた。

しかし、その後、飼育技術は日進月歩。特に菌糸ビンなる魔法の食事&居住空間が登場してからというもの、80mmは誰でも手の届くサイズに。菌糸ビンと飼育技術がカミをあっさり凌駕したのである。今でも毎年ギネス記録（現在86.6mm）を更新している。今シーズンもおそらくギネスは更新され87mmの壁を突破することは間違いないであろう。恐ろしや、菌糸ビン。恐ろしや飼育技術。

今、ブリーダーの間で欠かせない三種の神器は、菌糸ビン、エアコン（温度管理のため）、そして血統。今では、オオクワガタはエアコンの効いた部屋の中においたビンで飼育するのが常識なのである。

人間に言い直せば、食事と環境と、そして血統。きっとトップブリーダーは言うであろう「ボルトとジョイナー（故人だから不可能ではあるが）との間に子どもを作って短距離走が早くなる食事、短距離走のトレーニングをすれば、きっと世界記録を塗り替えるはずさ」と。オオクワガタ飼育とはこんな世界である。このサイトは飼育技術を科学的に検証しながら大型オオクワガタを育てている人のサイトである。その検証方法が厳密でかつ様々な視点から行われており参考になるものばかりである。

奈良のM田 小学校教諭

[目次へ戻る](#)

#### 4. 『ひとり学際日記』

(<http://d.hatena.ne.jp/moriyasu1123/>)

ブログ著者は、元ハードラー（400mハードル選手）、著名なバイオメカニクスの研究室出身、ということはバイオメカニクスの研究者だったと思う（定かでない）。しかし、現在は乳酸関連の論文や陸上のレース分析関連の論文を書いている。子どもの体力低下問題のモンダイ（？）にも取り組んでいる。そしてこのブログは、その著者が“心に移りゆくよしなし事をそこはかたなく書きつづっている”ようである。従って、とにかく手広い・・・私のように実験系の研究と柔道のコーチしか行っていない者（それも広いか???)からするととにかくついていけない。しかし、私自身も国立スポーツ科学センター（オリンピック選手のためのサポート機関）に勤めた後、大学のいわゆる底辺校に勤め、ほぼゼロから運動部を立ち上げたこともあり、現在のスポーツとは何なのか・・・と考えさせられることが度々ある。そのため、何かと興味をひく内容が多い。常々いつそのことブログ著者には、スポーツ文化系の論文でも書いてみたらどうかと思っていたところ、こういった機会を頂き、是非ブログを紹介し、異種格闘できればと思う。これを契機に、ブログ著者が望んでいる学際的な活動につながれば幸いである。

久保潤二郎（平成国際大学）

[目次へ戻る](#)

## 5. 『日本認知神経リハビリテーション学会公式ホームページ』

(<http://www.ctejapan.com/index.html>)

リハビリテーションの分野で新しい発想で患者の身体図式の再構築を促すための方法を模索している学会です。これまでの認知運動療法学会から名称を日本認知神経リハビリテーション学会に変更しています。この学会が共有している考えはイタリアのリハビリテーションで生まれ、実践されているものです。この理論の中心になっているのはカルロ・ペルフェッティ氏ですが、リハビリテーション医学、生理学、運動学、そして心理学の各理論が融合された形で理論構築が目指されています。人間の身体と運動の問題をリハビリテーションという実践の現場から考えていくことができます。あるいは患者と毎日接しているリハビリテーションの実践を行っている人にとっては、人間の身体と運動をどのような理論的視点を持ちながら患者の身体・運動の回復を実現することができるかという大きな課題への挑戦でもあります。

このホームページからはこの学会の最近の動向、問題意識、理論背景なども知ることが出来ますし、リハビリテーションの実践に直接関わらない人でも広く人間の身体と運動に関心を持っている人には新しい視点でこれらの問題を考えていくきっかけになると思います。

佐藤公治（北海道大学大学院教育学研究院）

[目次へ戻る](#)

## 6. 『フランスの日々』

(<http://mesetudesenfrance.blogspot.com/>)

海外で暮らす日本人は、とかく祖国日本を憂いたり、恋しく想うものですが、単に「海外かぶれ」に陥ることなく、また「祖国批判」のみに陥ることなく、冷静に物事を判断するのは難しいものです。どの国にも「いいところ」と「改善すべきところ」があり、自らの改善すべき点はいかに謙虚になれるか。そして良いものは貪欲に取り入れることができるか？ そんなことが大事であることを考えさせてくれる優良サイト。海外で暮らすメリットはじっくりと考える時間ができること。海外在住の日本人ブロガーは数多くありますが、みな大変よく現状を分析しており、独自の発想・視点がとても参考になります。是非一度、海外での生活を。単なる旅行よりも、その地に「住むこと」現地の人と「暮らすこと」、そしてできる限り、当地で緊張感のある毎日を送ることをお勧めします。

## 『宋文洲のメルマガの読者広場』

(<http://www.soubunshu.com/>)

同内容をメルマガでも発信しているため、このようなサイト名になっております。

ブログの著者である宋文洲氏は、日本(北海道大学)への留学経験があり、大学院修了後は日本で会社も立ち上げ、日本社会に大変精通した優秀な御方である。独自のユニークな物事の見方・発想などは、とかく均一な考えの多い日本社会において、頭の柔軟体操のために重要であると思われる。(本人もそのように考えているようで、敢えて違った視点からの異なる意見を述べることに快感を覚えている様子。)  
「場の空気を読む」「相手の気持ちを第一に考える」ということが美德と教え込まれた日本社会においては、それを乱すとKY(空気が読めない)といわれるが、実は世界にはKYばかり。おかしい主張でも平気で自信をもって言ってくる。「自分は悪くはないけど、とりあえず謝っておく・・・」なんていう考え方は日本人だけで、謝った時点でこちらの非を認めているということ。

さてこれを期に、グローバリゼーションとは何か？ 今一度各自がよく考えてみる必要があると思われる。単に英語(外国語)を使いこなすことか？ わたくしたち日本人が「海外の文化」「異なる文化(差異)」を理解しようと試みることに同時に、わたくしたち日本の文化を海外のひとたちに理解してもらう必要があるのか？ 無理に理解しようと努める必要もなければ、無理に理解してもらおうと努めなくてもいいのではない



か？ 「マンガ」や「寿司」のようにいいものは黙っていても世界に出て行き、認められるのだろうか？ 日本人が世界のひとたちの考え方を、また世界のひとたちが日本人の考え方を理解し、認め合える日は来るのだろうか？ それができるようになるには？ いずれにしても、日本人にはまだまだ対外試合(世界に揉まれること)が必要であると思われる。

## 『青木直人 BLOG』

(<http://aoki.trycomp.com/>)

真のジャーナリスト、中国ウォッチャー。

ブログの著者である青木直人氏は中国への留学経験があり、その後も日本の民間シンクタンクにて国際政治(特に東アジア)を中心に分析されている御方。単に反中・親米(反米・親中)というイデオロギーの問題を論じているのではなく、リアリティー(現実)を直視し、それをどのように考えるか。正しい情報を提供することを信条にジャーナリスト活動を行っている。“現実(リアリティー)なくして、今後を占うこと、議論することは不毛であり不真面目極まりない”という氏のスタンス。単に反米(オバマやブッシュは罵るけど、コキントウには何も言わない・・・目を瞑る)では話にならないのである。日本人の中には親米、親中はあるけど、親日が少ないように思える。とは氏の意見。世界は決して平和ではないし、世界は今も血を流しながら、平和を求めている。いずれにしても、わたくしたちの暮らしは世界とつながっている、ということを実感しないとけないと思っているが、如何せん・・・。「犬の迷子」の話さえがニュースになるような国、日本では無理かな？ このまま(ガラパゴスといわれようが)、日本だけが平和であることを切に祈る次第である

札幌大学“純”教授

[目次へ戻る](#)

## 7. 『東北伝説』

(<http://www5.ocn.ne.jp/~furindo/>)

神話の里、遠野に有る出版社「風琳堂」が開設するサイト。

私はサイトの制作者で、社主の菊池氏の著作『エミシの国の女神』『円空と瀬織津媛（上下）』を読んで、長らく感じていたこの日本と言う国家の多重構造と、それによってもたらされる一種の違和感の謎を解く鍵が見つかったと、大変興奮した覚えがある。

所謂、在野の歴史研究の類なのだが、その考証方法は緻密で、よくある好事家の浅薄な飛躍は見られない。むしろ膨大な情報を元に、正史の裳裾に隠れてしまった女神の姿を、仄かな灯の向こうに透かし見る如き、長編の推理小説に似た読了感を堪能することができた。

筆者は、柳田国男の「大昔に女神あり・・・」という、遠野物語は早池峰の項の一説に長年拘り続け、膨大なフィールドワークと、歴史学、民俗学、神社伝承など他分野のつき合わせによって、ついに大祓祝詞に登場する祓戸四神の中の一柱「瀬織津媛」という神こそが、日本の総廟「伊勢」に坐す太陽神の、隠され、分断された名称であるという事実に行きあたる。

天照太神と言うとき、一般に我々は、天皇の氏神とか、日本の基を築いた神、最高神などといったイメージが浮かんでくるが、サイトにおける論考をはじめ、ブログや掲示板にて交わされる討論は、それに止まらず、産鉄民等の非平地民に伝わる伝承や、東北という存在、アイヌや琉球の歴史と、単一民族国家という幻想、正史を拠り所にした現在の神社神道の矛盾など、古代からいまを生きる我々の有りようを照射する話題が、これでもか、というほど紹介されている。

私自身が山を根拠として来た、武士団の末裔であり、希少姓氏でもあるので、幼少から所謂「日本」と言うものに、何か虚像めいた違和感を感じていた。その中で、修験に嵌り、在野の歴史書を猟収し、家系やライフスタイルなどのルーツを探っている間に、「おう、ここにも同じような人がいたか」と、思わず入り込み、その余りものマニアックさに、出るに出られなくなってしまった・・・まさに「隠れ里」のようなサイトなのである。

伊與久松風

目次へ戻る

## 8. 『十勝の大地から・・・ K's FARM 十勝帯広 梶農場』

(<http://ksfarm.jp/>)

十勝のイケメン・ファーマー梶宗徳くんのブログをご紹介します。

梶くんは、十勝に入植以来、代々続いた畑作農家の後継者です。およそ 35ha の広大な農地に小麦、ビート、大豆、じゃがいも、「畑作4品」といわれる作物を生産しています。この十勝農業の典型的な作付け体系は十勝平野の美しい農業景観をつくりだしています。しかし、その生産物のほとんどが原料作物として工場に納入されて、小麦粉、砂糖、でんぷんなどに加工されるため、直接、消費者に届けられることはあまりありません。

また、十勝の若手の農家のモチベーションを高め、誇り高き農業者たる活動を積極的に行っています。梶くんが会長をつとめる「十勝おやじの背中を超える会（通称、おやせな）」は、自分たちの父親世代の偉業を敬い、それをしっかりと受け継ぐことで日本の食料を守り、畑と食卓をつなぐべくさまざまな活動を行っています。

十勝の広大な大地で、日本の食料を守りつづける男がつづる、大型の農業機械を使っ  
てのダイナミックな農作業と、作物を愛でる繊細な心の織り成すブログからは、十勝の  
そよ風や土のにおいを感じます。

株式会社リープス代表取締役 鈴木 善人  
【農業コンサルタント・技術士（農業）】

[目次へ戻る](#)

## 9. 『田中宇の国際ニュース解説：世界はどう動いているか』

(<http://tanakanews.com/index.html>)

田中宇（たなか・さかい）氏の『田中宇の国際ニュース解説：世界はどう動いているか』は、正確にはブログではなく、無料と有料のニュース配信（メールマガジン）である。したがって、企画者の意図とは外れているのであるが、このサイトを紹介することにした。

タイトルの通り、このサイトは国際ニュースの解説である。ソース源は、『Wall Street Journal』や『The Economist』、『Arabic News.com』などの世界各地の英文メディアである。キーポイントは、その情報源の多さである。一国だけの情報で時事を見るのではなく、多国からの情報でその時事を読み解こうとする。そうすると、日本からの日本語での情報では見えないその裏に隠された情報を知ることができる。

たとえば「見えてきた尖閣問題の意味」（有料会員のみ閲覧可）によると、昨年12月に行なわれた日米軍事演習では「敵国が尖閣諸島に侵攻」することを想定していた。普通では、9月の尖閣諸島問題があったからこそ、と思うであろうが、実は、この演習の計画は8月末に決められており、9月に起こった衝突事件を「利用」したとも見えるのである。つまり、シナリオを作って軍事演習を企画し、実際の衝突事件で中国を怒らせて敵対状況を作り、やむをえず軍事演習を行う、といったイメージを作り出すのである。日本人のどれだけが、このような情報を知っているであろうか。

この「田中宇の国際ニュース解説」から得られるもうひとつの重要なことは、いかにわれわれ日本人が、政治家、高級官僚、マスコミらによって、偏った情報しか与えられていないかに気付くことである。したがって、このメルマガは、自らのメディアリテラシー能力を高めるためにも役立つのである。

岡田 憲志 (Yew Chung International School (Shanghai, China) 体育教師)

[目次へ戻る](#)

## あとがき

うえねうさら第3号は、「イランカラプテ ～ウエネウサラの種～」と題しました。「イランカラプテ」は、アイヌ語による挨拶「こんにちは」の言葉です。出会いと挨拶からはじまるように、四方山話（ウエネウサラ）の種を播かせていただきました。

私たちの Sportology への好奇心は、単なるスポーツニュースをネタに話に花を咲かせるだけではなく、身体・世界・歴史・思想など視野をひろげています。新しい情報や考え方に触れながら、変容をし続けたいと思っています。そこで、今号では、よく訪問されているブログを紹介してもらい、四方山話の種としたいと考えました。

例えば、「うえねうさら」を掲載している ISC21 のサイトでも、主幹研究員である稲垣正浩先生が「スポーツ・遊び・からだ・人間」をキーワードに、スポーツに関する時事問題から文芸、映画批評など幅広く、また精力的に言葉を発信されています。

形態や質は多様ですが、ブログやサイトで発信される言葉はまさにウエネウサラの様相ではないでしょうか。そこで、今号編集担当者の友人・知人に注目しているブログを紹介してもらい、それらを集めて四方山話に花を咲かせる種としたいと企画しました。

しかし、個人的に「3.11」のショックに言葉を失いかけ、せっかくいただいた種をお披露目できずに大変多くの時間を経てしまいました。筆者の皆様ならびに読者の皆様にお詫びするとともに、ここにウエネウサラの種をお届けいたします。

うえねうさら第3号編集担当 瀧元誠樹

うえねうさら (ueneusar)  
21 世紀スポーツ文化研究所 web マガジン  
第1巻第3号 (通巻第3号)  
2011年9月20日発行  
(禁無断転載)  
編集者 瀧元誠樹  
発行者 稲垣正浩

発行所 21 世紀スポーツ文化研究所 (ISC・21)  
〒216-0005  
川崎市宮前区土橋 2-15-2-209  
電話：044-861-8881  
e-mail: inagaki@isc21.jp  
web サイト: <http://www.isc21.jp/isc21index.html>

目次へ戻る